

## 生活科の年間指導計画の在り方に関する研究

—愛知県岡崎市の年間指導計画の分析から—

野田 敦 敬 (愛知教育大学 生活科教育講座)

前 畑 朱 里 (愛知教育大学大学院)

(2004年10月27日受理)

### A Research about the Modalities of an Instructional Plan for the School Year of Life Environment Studies

Atsunori NODA (Department of Life Environment Studies, Aichi University of Education)

Juri MAEHATA (Graduate Student, Aichi University of Education)

**要約** 生活科教育課程の現状・傾向を把握し、今後の改善に役立てるため、愛知県岡崎市立小学校の年間指導計画の分析を行なった。その結果、学校によってそれぞれ地域の特色を生かした特徴が出ており、生活科として望ましい状況であった。全体としては、内容(7)「動植物の飼育・栽培」が最も多く取り扱われていた。しかし、内容(1)「学校と生活」及び、内容(2)「家庭と生活」の取り扱いが少ないこと、1単元の平均時間数が短いことなどを改善していく必要がある。特色ある学校の取り組みを参考にしたり、内容構成の10の具体的な視点を意識したりして、年間指導計画を編成していくことが大切である。

**Keywords** : 生活科, 年間指導計画, 岡崎市

#### 1 研究の目的

平成10年度の学習指導要領の改訂において、生活科は、具体的な活動や体験の一層の充実のもとに、内容が8つに再構成された。また、地域や児童の実態に応じた多様な活動・体験ができる特色ある単元開発、総合的な学習の時間との関連を考慮した他教科等との合科的・関連的な指導の一層の推進、生活科の評価の在り方などが提起され、それらに対応することのできる各学校独自の教育課程を編成する必要がある。

しかし、新学習指導要領の全面実施から2年が経過した今、生活科の教育課程は過去につくった物を何年もそのまま使用したり、地区によっては一括に統一して定められていたり、教科書に沿っているだけであったりして、各学校独自の特色ある教育課程を編成している学校は少ないのではないだろうか。

そこで、生活科の年間指導計画の分析を行なうことによって全体の現状・傾向を把握し、今後の改善に役立てたいと考えた。さらに、年間指導計画に特徴のあるいくつかの学校の生活科主任の先生方への面接調査を行なうことによって、年間指導計画からは読みとれない面を知ることができると考えた。ある市の複数の学校の年間指導計画を分析し、比較することによって、地域・学校の特色を明らかにすることができ、各学校が力を入れている内容、他に比べて取り扱いの少ない内容を明確することができるという意義がある。そして、その結果を学校に示すことによって、地域・学校の特色をより一層深めたり、足りない部分を補ったり

して、よりよい教育課程を目指した生活科年間指導計画の改善に役立てることができるのではないかと考えた。

そこで、第12回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会全国大会(平成15年11月)が開催された愛知県岡崎市の42小学校の年間指導計画の分析を行なうことにした。

#### 2 研究の方法

##### (1) 分析対象

岡崎市立42小学校の平成15年度 第1・2学年の生活科年間指導計画

##### (2) 岡崎市の概要

調査対象とした岡崎市は、愛知県中央部に位置する人口約34万人の中核都市である。地形的には約3分の2を占める丘陵地、矢作川と乙川流域に広がる平野部から成っており、美しい自然と環境に恵まれ、都市部のある一方で、田園部や山間部もあり、地域性は多様である。また、260もの指定文化財があり、徳川家康公の史跡も豊かで今に伝えられている。

その徳川家康公が江戸幕府を開いてから400年目にあたる平成15年の11月に開催された第12回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会全国大会の他にも、第6回日本生活科教育学会全国大会(平成9年)も開催されるなど、生活科教育への関心は高い地域である。

		1 学期 ( 3 5 )				2 学期 ( 4 2 )				3 学期 ( 2 5 )		
		4	5	6	7	9	1 0	1 1	1 2	1	2	3
一 年		<p style="text-align: center;"><b>いきものだいすき! ( 4 8 )</b></p> <p>○アイガモ、モルモット、チャボとなかよし ( 1 5 ) ⑦ アイウオカキクケ</p> <p>○あかちゃん大作戦 ( 2 3 ) ⑦ アイウエオカキクケ</p> <p>○絵本作りに挑戦 ( 1 0 ) ⑦ イオカキクケ</p>										
		<p><b>がっこうたんけん (10)</b></p> <p>①④⑦</p> <p>アイウオカコ</p>		<p><b>あさがお、大きなあれ (14)</b></p> <p>②⑤⑥⑦</p> <p>カク</p>		<p><b>秋見つけ (12)</b></p> <p>③④⑤⑥⑦</p> <p>アイウオカキク</p>		<p><b>お手伝い大作戦 (6)</b></p> <p>②</p> <p>アイオケコ</p>		<p><b>ふゆと仲良し (12)</b></p> <p>⑤⑥</p> <p>アイオクケ</p>		
二 年		<p style="text-align: center;"><b>ヤギさんはぼくらにおまかせ (50)</b></p> <p>○ぼくたちも ヤギを飼おうか(3)⑦ イコ</p> <p>○ヤギと仲よし(15) ⑦⑧イオ ケコ</p> <p>○めざせ! ヤギ博士(5)⑦ イオケコ</p> <p>○ぼくらのヤギ紹介! 大作戦(5)⑦ イオカケ</p> <p>○元ちゃんたちのための大作戦 (10)⑦⑧ アイオカクケコ</p> <p>○学芸会で伝えよう! ぼくらの感動(10) ⑦⑧イウエオカキク ケコ</p> <p>○元ちゃんたちのお別れ会(2)⑦ イオカケコ</p>										
		<p><b>2年生になったよ(8)</b></p> <p>①⑥</p> <p>イケオクコ</p>		<p><b>さんぽでかけよう (15)</b></p> <p>③⑤⑥⑦</p> <p>アイウオカキクコ</p>		<p><b>レッツゴー町探検 (17)</b></p> <p>③④⑤</p> <p>アイウエオ</p>		<p><b>大きくなったわたし (15)</b></p> <p>⑧</p> <p>キケコ</p>				
		4	5	6	7	9	1 0	1 1	1 2	1	2	3
		1 学期 ( 3 9 )				2 学期 ( 4 3 )				3 学期 ( 2 3 )		

図1 岡崎市立連尺小学校 平成15年度年間指導計画

### (3) 分析の方法

年間指導計画の各単元に位置付けられている生活科の内容①～⑧、生活科の内容構成の具体的な視点ア～コを学期ごとに数えた。

なお、学期をまたいでいる単元、例えば1年1学期の終わりから1年の2学期にかけて扱っている単元は、両方の学期にカウントした。また、2学年の合同の単元は両方の学年にカウントした。

このようにして数えた内容・視点それぞれを各学年の学期ごとに集計し、分析した。したがって割合に直接時間数が反映しているわけではない。

図1の連尺小学校の1年1学期を例に数えると、下のようなになる。

内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
数	1	1	0	1	1	1	3	0		
視点	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
数	2	2	2	0	2	3	1	2	1	1

### 3 結果及び考察

#### (1) 年間指導計画分析の結果

ア 1つの単元(小単元)の時間数はどれくらいであるか

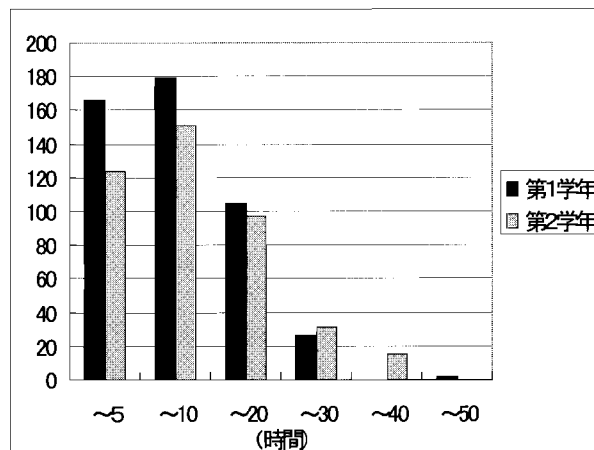


図2 1単元の時間数

図2において、1・2年ともに20時間を超えるような長い単元は少なく、10時間以下の単元が全体7割を

占めた。その中でも、1～2時間完了の小単元も多く、対象と繰り返しかかわるといふ点、評価を指導に生かすといふ点で問題があると考えられ、見直す必要がある。また、活動を進めていく中で生まれる子どもの思い・願いを生かして柔軟に対応できるように時間数はゆとりをもってとっておくことが望ましい。

イ 生活科の全単元数はどれくらいであるか

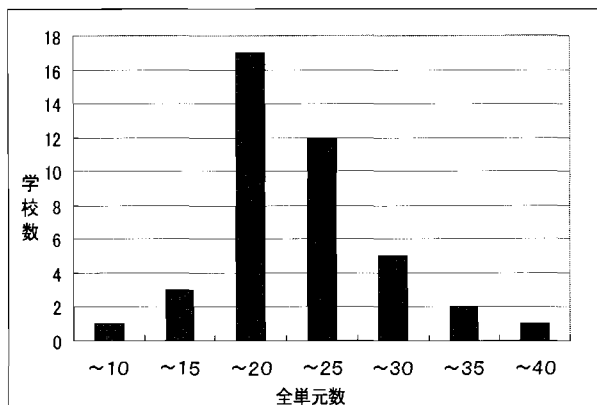


図3 生活科の全単元数

図3のように、2年間で全単元数が16～20単元の学校が最も多く、全体の4割を占めた。2年間の全時間数で考えると、1単元の時間数が平均10時間程度となる。

分析した年間指導計画は、例えば栽培を細かく分けて、「植ええ」「花が咲いたよ」「種が取れたよ」と小単元で書いている学校もあれば、これらをまとめて「おおきなあれ」という大単元で書いている学校もあるため、この数字がこのまま反映されるものではなく、1つの目安と考えたい。

ウ 内容がどのように位置付けられているか

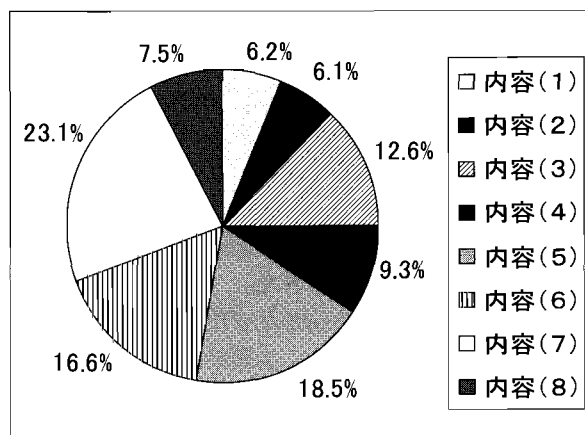


図4 第1・2学年における内容の位置付け

図4において、内容(7)「動植物の飼育・栽培」が全体の約4分の1と最も多く扱われていた。

図5より、内容(1)「学校と生活」は入学当初の1年1学期の取り扱いが最も多いことが分かる。また、2年1学期は1年生に学校を紹介するという内容の活動が多い。子どもが毎日生活する重要な環境である学校は、ある期間に限定するのではなく、人とのかかわりを通して、繰り返しかかわることが必要である。

取り扱いの少ない内容(2)「家庭と生活」は、1年2学期が最も多く、これは年末年始にお手伝いをしようという内容が多い。プライバシーの問題で難しい単元ではあるが、各単元の中に効果的に位置付けることが望ましい。

また、内容(8)「自分の成長」は、各学年末の取り扱いが多く、中でも2年の3学期が多い。活動を振り返り、自分の成長に気付く機会は全ての単元の中で位置付けていくことが重要であると考えられる。

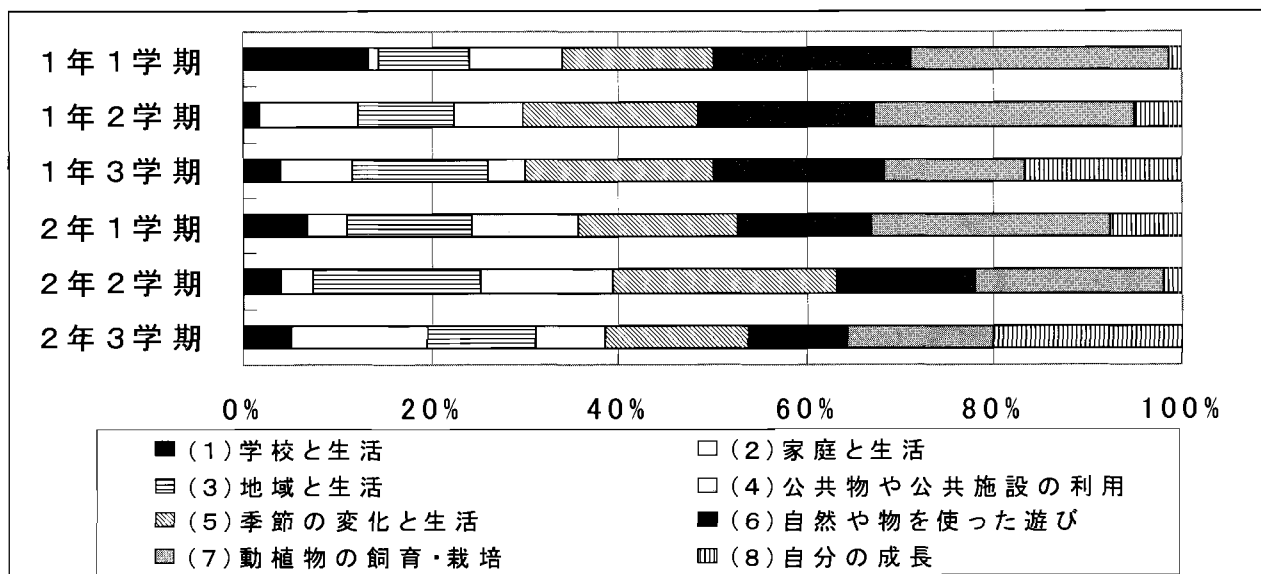


図5 各内容をいつ取り扱うか

### エ 飼育・栽培の取り扱い

内容の中で最も多く取り扱われていた内容(7)「動植物の飼育・栽培」について、地域ごとの傾向を調べるため、岡崎市の地形を矢作川及びJR東海道本線以西を田園部の残る新興住宅地域、東名高速道路以東・岡崎インターチェンジから真南におろした線より東を山間部、その間を市街地として分けた。すると、岡崎市内の小学校は図6のように、山間部13校、市街地17校、新興住宅地域12校に分類された。

図7より、山間部は市街地及び新興住宅地域に比べて特徴があることが分かる。山間部の学校の50%以上が、飼育と栽培を2年間を通して行なっており、2年間を通して1度も飼育を行なっていない学校はなかった。飼育については1年生で行なう学校が約20校、2年生で行なっている学校が約30校となっている。

1年生で栽培を行なっていない学校は1校もなかった。岡崎市全体を通して、栽培で多く扱われていたのは、アサガオ・サツマイモであった。山間部においては、麦や稲など、広い栽培面積を必要とするものを扱っている傾向があった。

栽培のみを扱う学校は、市街地及び新興住宅地域に5校あった。栽培は市街地の学校でもプランター、植木鉢を用いることで、比較的容易に取り扱うことができるが、飼育は市街地では扱いにくく、地域の自然環境が影響することが分かった。

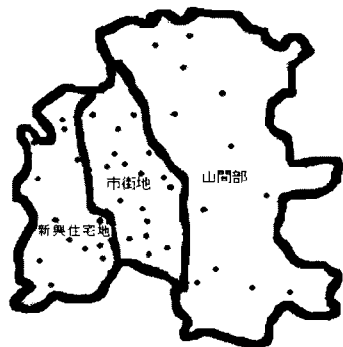
学習指導要領の指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い(4)には、「内容(7)については、2学年にわたって取り扱うものとし、動物や植物へのかかわり方が次第に深まるようにすること」<sup>1)</sup>と書かれている。学校や地域、子どもの実態に応じて、2つを関連させたり、どちらかの学年にまとめたりして効果的に位置付ける必要がある。2年間にわたって取り扱うことで、翌春に開花、収穫できる水やりが比較的少なくて良い秋まきの植物を学習材に選ぶことができる。また、1回限りの活動ではなく、新たなめあてをもって同じも

のを2度育てることもでき、長期間対象にじっくりかわり世話を続けることで対象への気付きが深まり、自分への気付きも深まるといえる。

今日、自然環境の変化により子どもが自然とかわる機会が減少し、テレビゲームやインターネットの普及により生活自体がバーチャル化している影響で、現代の子どもたちは生命尊重の意識が希薄化しているといえる。嶋野道弘が「低学年の時期における生命尊重の心は、理屈ではなく、実感である」<sup>2)</sup>と述べているように、本の中だけの知識ではなく、親しみをもって心を寄せながら動植物と直接ふれあい、かかわりを深めることのできる飼育・栽培活動は大変意義深いといえる。また、動植物を飼育・栽培する意義として、自分とのかかわりを通してその動物の特徴や、変化・成長することが分かること、生命をもっていることを実感すること、優しい心を育てることなど様々である。

例えば、モルモット飼育において、初めて見た感想に「モルモットのきもちをわかりたい」と書いた子どもは、頻繁に筒の中に隠れるモルモットを「こわいのかな」と気持ちを予想したり、「水とえさをいっぱいあげました」とモルモットが喜ぶことを一生懸命に考えようとしたりしていた。継続的に飼育を続けると、泣いている友達に優しく話しかけ、その子の立場に立って問題が解決する方法を考え、泣きやんだことを「よかったとおもいました」と述べ、友達の気持ちの考えて思いやりをもって接することができるようにまでなった様子が見て取れた。

このように、動植物は考えていること、思っていることを言葉で伝えることができない分、子どもはその動植物がどんなことを考えているのか、何をされたらいいや、何をされたらうれしいか、どんな食べ物が好きなのかなど、必死で考えようとする。そうしたことから、相手の気持ちを考えることができ、人の気持ちを考えることができるという思いやりの心が育つのではないかと考える。



●は学校の位置  
図6 岡崎市の区分

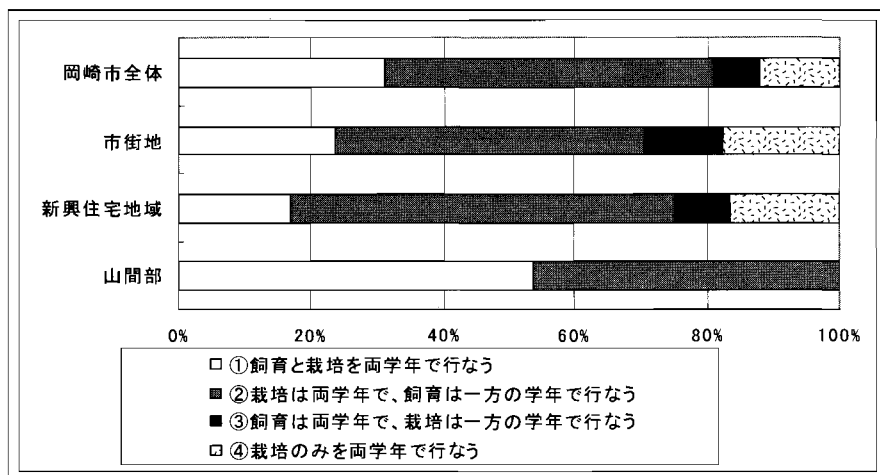


図7 飼育・栽培の取り扱い

オ 内容構成の10の具体的な視点がどのように位置付けられているか

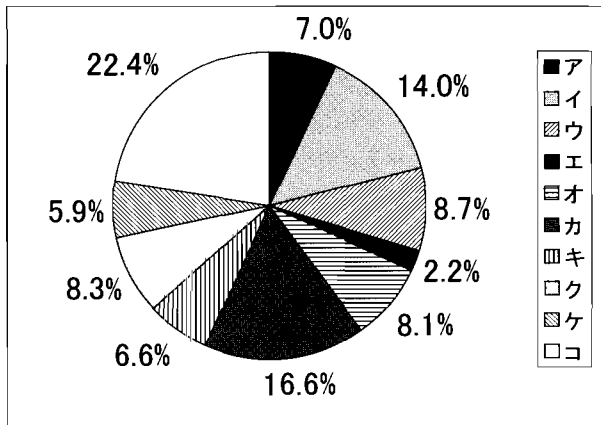


図8 第1・2学年における具体的な視点的な位置付け

10の具体的な視点とは、生活科の示す方向と特色を明確に打ち出した3つの基本的な視点を更に詳しく示したものである<sup>3)</sup>。3つの基本的な視点及び10の具体的な視点は、内容を構成するために設定した内容選択の視点であり、生活科独特のものである。

図8から、最も多く取り扱われていたのは、視点コ「基本的な生活習慣や生活技能」であった。また、図9から、各学年のすべての学期ではほぼ同じくらい扱われており、各単元の中でバランスよく取り扱われていることが分かる。

反対に最も少なかったのは、視点エ「生活と消費」であり、わずか2.2%であった。図9から、8割以上が2年で扱われていることが分かる。これは町探検の中でお店屋さんに行くときや、育てる野菜の苗や花の種を買いに行くとき、収穫した野菜で料理をする会で

他の材料を買いに行くとき、栽培したものを売るときなどであると考えられる。山間部の学校では商店が少なく、扱いにくいことも考えられるが、売買することだけでなく、学習指導要領解説に書かれている「計画的に大切につかう」<sup>4)</sup>という面にも目を向けて、意識して位置付けるようにしたい。

10の具体的な視点は子どもの学習環境の変化、社会的な要請の変化などによってその都度若干の変更が加えられるものであり<sup>5)</sup>、平成10年度の改訂においても4つの視点の項目に変更がなされた。例えば、平成元年頃にはどのように情報を伝達するかが重要であり、「情報の伝達」が定められたが、現在の高度情報化社会の中では人間らしさを保つこと、すなわち人との直接・間接の交流が求められ、「情報と交流」に変更された<sup>6)</sup>。このような改訂の趣旨を今一度理解した上で、学校の子どもの実態と照らし合わせてみることも大切である。

8つの内容の中には、多くの具体的な視点から内容が構成されているものと、1～2の具体的な視点から内容が構成されているものがある。したがって、1つの単元の中に多くの具体的な視点が位置付けられている方がよいか、ある程度しぼった方がよいのかは単元の長さともかかわり、結論を出すことは難しいといえる。

しかし、8つの内容を理解するための手がかりにもなる10の具体的な視点的な位置付けを今一度確認し、特に、内容に直接対応させにくい視点エ「生活と消費」、視点オ「情報と交流」などを意識して位置付けていくことは重要なことであるといえる。

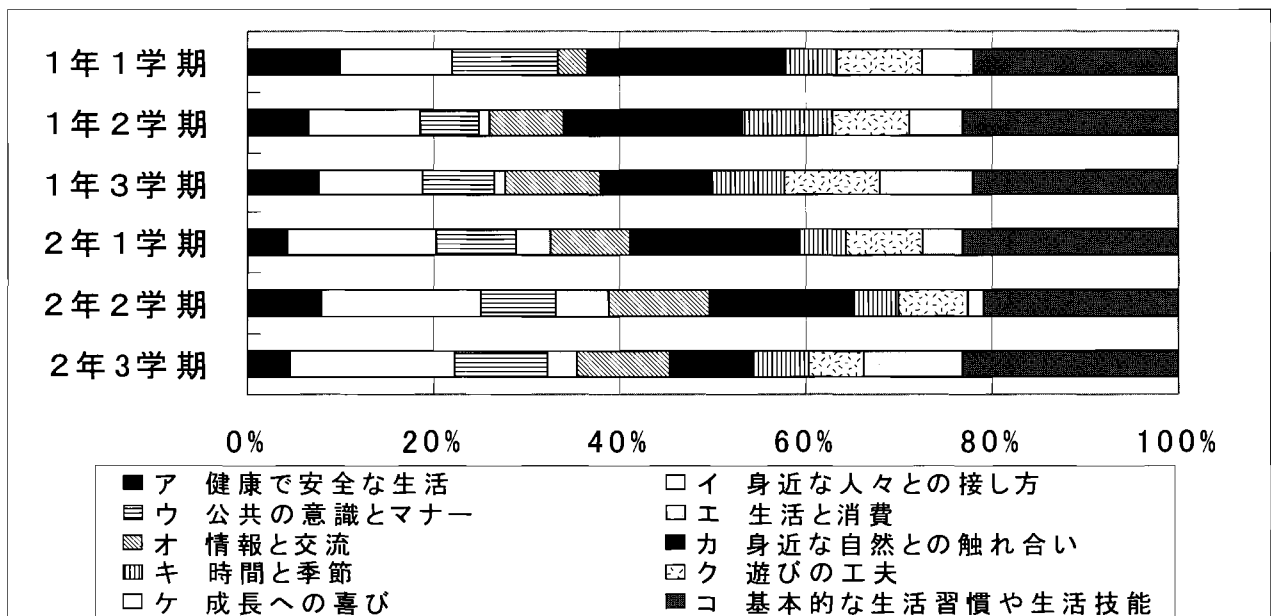


図9 各視点がいつ取り扱われているか

(2) 面接調査

ここでは、年間指導計画に特徴のある学校の生活科主任の先生方に面接調査を行なった中から、一部を紹介する。

ア 六ッ美西部小学校

六ッ美西部小学校は、岡崎市の西部、矢作川の流域に位置する、菜の花で有名な新興住宅地域に平成9年につくられた新しい学校である。

生活科は学年ごとにテーマが設定されている。1年は「おおきなあれ～みんな“ともだち”～」で命の尊重を中心にしており、2年は「とびだせなのはなたんけんたいー町大好きー」で地域との触れあいのなかで、愛着を感じ、自分にできることを考え、総合的学習につなげていくということを中心としている。このように、学年または生活科を通して、子どもに育てたい力を明確にし、それに基づいて年間指導計画を作成することは、大変望ましい。

図10から、内容(3)「地域と生活」が岡崎市全体が12.6%であるのに対して、21.2%と最も多く取り扱われている。これは、地域には昔から住んでいる温かい方が多いため、いろいろな人と触れあって学んでいくことができる恵まれた環境にあるからであるということが分かった。学校ができたときから、地域の人たちの力をかりて、一緒に学校を作ろうという考えをもち続けており、そのことから地域の人たちが、生活科や総合的学習にも協力的に参加してくれていることが分かった。

今回の生活科の改訂において、人とのかかわりが重視されたこと、今後ますます深刻化する高齢化・少子化によって人とのかかわりがより希薄化していく恐れがあることから、このように地域の人とかかわり、

町の人に挨拶ができるようになるなどして、人と適切にかかわれるようになったり、自分の町に愛着を深めていったりすることのできる取り組みは意義深いといえる。

一方、内容(2)「家庭と生活」は数字の上では特に少なくなっているが、実際は地域を扱う中でも家庭と絡ませており、他の単元の中でも、家族の中の自分というのを常に考えるようにするなどして扱っているということが明らかになった。他教科の中でも、保護者が参加する機会が頻繁にあり、そのときには改めて感謝する場面を作っているということであり、このように生活科以外においても、家族を意識する取り組みは望ましいことである。

イ 連尺小学校

連尺小学校は岡崎市の中心部の市街地に位置し、古くから城下町として栄えた歴史ある学校である。また、平成15年度の全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会研究大会の会場校でもあった。

内容(7)「動植物の飼育・栽培」が全体の3割近くと最も多く取り扱われており、1・2年ともに生活科の全時間数の半分以上をあてて、モルモットやヤギなどの飼育活動を行なっている。飼育の対象に長期間かわる活動を通じて、学ぶ姿勢や問題解決の方法を身に付けさせること、対象への気付きから自分自身への気付きに高めることを大切にしているということである。さらに、クラスの友達や育て方を教えてくれる人、協力してくれる人とかかわりを深め、その人たちに心からの感謝の気持ちをもつことを大切にしており、このような飼育を通じた様々な力の育成は意義深いといえる。

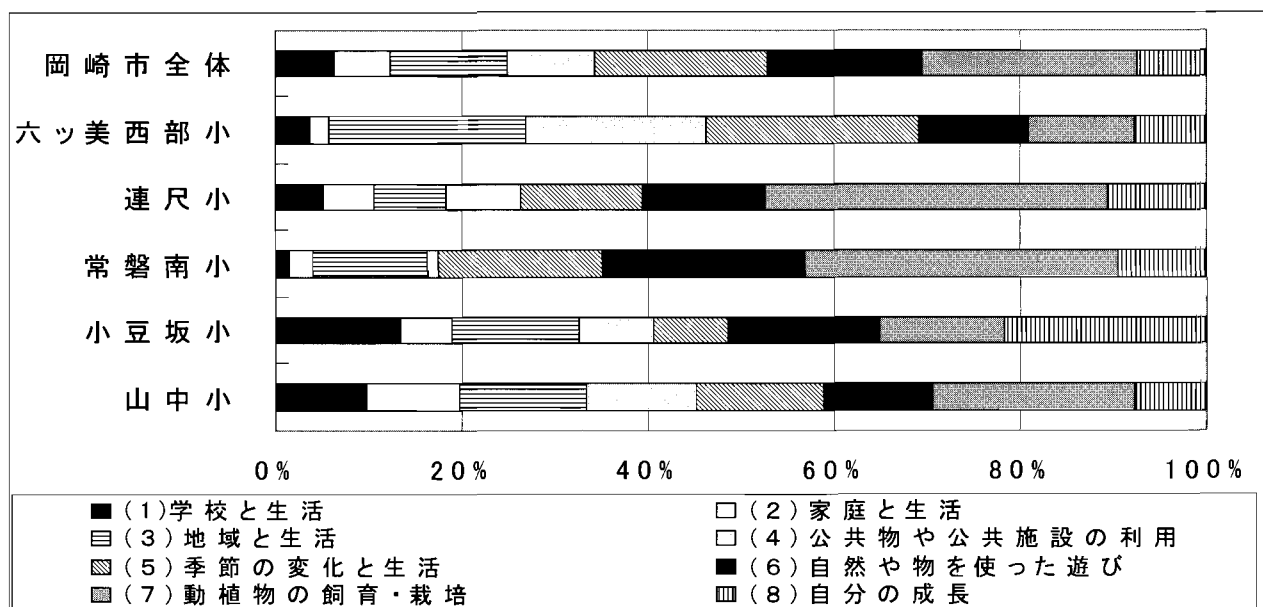


図10 特徴ある学校の内容の取り扱い

また、視点ケ「成長への喜び」が岡崎市全体の2倍以上の12.8%と多くなっていた。すべての単元の中で、活動をじっくり振り返り、教師の子どもの見取りと友達同士の相互理解によって、自分の知識の広がりやできなかったことができるようになったということ自分の成長として自覚させる機会を与えており、参考にしたい。

また、生活科における体験の中で感じたことや伝えなくなった切実な思いを、国語との関連を図って作文や本としてまとめている。書くことは、改めて振り返ったり、気づきを深めたり、自信をもったりする機会にもなり意義深い。その中で自分の思いを伝えたいという気持ちから、自然に「ここで国語で出てきたあの言い方(文型)を使えばいいんだね。役に立つんだね」ということを感じて生かしていけるようにしていくことを重視しているということであった。子どもは何かをするとき、頭の中で教科を意識して考えてはいないので、教師も生活科と他教科を分けて考えるのではなく、常に他教科を効果的に生かすことを意識しているとのことである。

このように、子どもの意識の広がりを理解した上で、教育課程全体を見渡して他教科との関連を効果的に取り入れていくことは非常に重要なことである。

#### ウ 常盤南小学校

常盤南小学校は、山間部に位置する豊かな自然に囲まれた全校児童45人、全学年単学級の岡崎市で最も小さな小学校である。

恵まれた豊かな自然の中で生活していても、子どもたちはそれを当たり前と感じているので、意識的に身の回りの自然に目を向けさせたいという教師の願いから内容(7)「動植物の飼育・栽培」が約3割と最も多く取り扱われていることが分かった。

豊かな自然を生かしたお米作りやジネンジョ堀り、シイタケ栽培などを全学年で行なっている。そのことによって、上下学年とのかかわりを深め、年々できることが増えていく自分の成長を自覚したり、優しさや思いやりを身に付けていったりしているということであった。

また、生活科で四季ごとに行なわれている1年の草花見つけ、2年の樹木見つけは、総合的学習の中でも

学年ごとのテーマ(表1)で発展して行なわれている。6年間を通して地域の自然を把握するというこの活動は何十年も前から続けられているということが分かった。親しみながら繰り返し学区の自然にかかわる中で、地域の豊かな自然が財産であることに気づき、昔の人に感謝することを目指しているという。

学年	対象
1	草花
2	樹木
3	爬虫類 両生類
4	魚類
5	鳥類
6	昆虫

表1 自然活動

このような生活科だけでなく、総合的学習にもつながる6年間を通した活動は、子どもが自己を振り返りながら、成長していくことができると考えられ、教師も長い目で子どもを捉えていくことが大切である。

#### エ 小豆坂小学校

内容(8)「自分の成長」が最も多くなっており、21.6%と岡崎市全体と比べて3倍近く取り扱われている。活動における対象への気づきの中から自分自身への気づきに高めることができるようにすることを特に意識して年間指導計画を作ったということが分かった。

中でも活動後の表現活動を大切にしているということであったが、これは子どもがその活動を改めて振り返り、そのときには気づけなかった意味に気づいたり、気づきを深めたりすることができ、重要なことである。そのためには、音楽、図工、国語などとの関連を効果的に図ることも大切である。

小豆坂小学校の特色として、毎週2回の縦割り活動を生かした1・2年合同の単元を多く設定している。合同単元では、1年生が2年生に教えてもらったり、2年生の発表会を見たりすることで、まとめ方や表現の仕方を学び「2年生になったらこういう事ができるんだ」と期待感をもつことができる。継続的な交流活動の中で、異年齢とのかかわりを通して、多くのことを実感的に学び、自分の成長に気づいていけるようにさせたいと考えたこのような取り組みは効果的であると考える。

#### オ 山中小学校

1年の「しぜんとあそぼう あきふゆ」が41時間と岡崎市全体でも最も大きな単元になっている。これに重点を置いた理由は、季節のものは年によって時期がずれたり、変化したりするため、子どもの調べやかかわりが充分でなかった時にも柔軟に対応できるようにするためであることが分かった。計画にゆとりをもち、秋を中心に繰り返しじっくりかかわっていくことで、自ずと冬にも興味をもち、活動が深まっていったということであった。このように単元時間にゆとりをもつことで、子どもの心理にもゆとりができ、主体的な学びを深めていくことができると考える。

また、栽培単元が多く設定されており、何を育てるか教師が決めるのではなく、子どもが自由に選んで栽培を行なっている。2年生が栽培するものを選ぶとき、1年生の時育てたものをまた育てたいという子もいれば、友達が育てていたものに興味をもって選ぶ子もいるという。これは、子どもの思いを生かすことができ、1年時の活動を2年時に発展的に生かすこともできるという利点がある。さらに植物の特徴を友達の育てているものと比べるといった比較の見方が子どもの中にも芽生え、意義ある活動であるといえる。

各内容は岡崎市全体に比べても、バランスよく扱わ

れていた。内容(1)「学校と生活」は入学当初だけでなく、他の単元の中にも意識して位置付けられていた。また、内容(2)「家庭と生活」は3世代の家庭が多く、協力的な人も多いことを効果的に使って、昔の遊びや栽培で学校に招いて助言をもらったり、町探検に家族で行ったりしており、このような取り組みは参考になりたい。

#### 4 研究のまとめ

分析の結果、岡崎市は各校が学校や地域の特色を生かした特徴ある計画を作成していた。岡崎市の例を入れながら、7つの点から年間指導計画の作成の要点について述べたい。

##### ○テーマの設定

まず、六ツ美西部小学校のように地域や子どもの実態を生かして、2年間を見通した子どもの学びのまとまりを考え、各学年ごとに育てたい力をテーマとして明確に設定することが必要である。これは活動主義に陥らないためにも重要である。

##### ○内容の重点化

連尺小学校は内容(7)「動植物の飼育・栽培」に全時間数の半分近くを使っていた。その長期間の活動の中で対象とじっくりかかわり、気付きを深め、様々な力の育成を目指しているように、内容が2年間で8つに再構成された今回の改訂をふまえ、特色を生かした内容の重点化を図ることも重要である。

##### ○扱いの少ない内容への対応

内容(1)「学校と生活」は現状で多い入学当初だけでなく、人とかかわりを通して学校に馴染んでいけるよう繰り返し位置付けることが望ましい。

内容(2)「家庭と生活」はプライバシーへの配慮等の問題もあるが、お手伝いだけでなく、山中小学校が栽培で家族に指導にきってもらったり、収穫した野菜を家庭で食べたり、町探検と一緒に出かけたりしているといった取り組みも参考になりたい。また、六ツ美西部小学校のように家族の存在を意識させ、感謝の気持ちを持ち、自分の役割を見つめ直せるよう各単元の中で効果的に位置付けることが望ましい。

内容(8)「自分の成長」は、1学年末での1年間の振り返り、2学年末での今までの成長の振り返りが多いのが現状である。それにとどまらず、対象への気付きから自分自身への気付きに高めていけるように、教師の支援や価値付けを大切にしながら、各単元の中で効果的に位置付けていく必要がある。小豆坂小学校が1・2年合同の単元を設定し、人とかかわる中で自信や意欲をもち、自分の成長に気付いていけるようにした取り組みは、対象への気付きから自分自身への気付きへと価値付けていくものとして意義がある。

##### ○10の具体的な視点の意識

内容構成の10の具体的な視点の位置付けを意識し、

設定した各単元が内容と視点のどれが当てはまるのかを年間指導計画に明確に示しておくことによって、全体のバランスを見直したり、実際に取り組む際に育てたい力を意識したりすることができる。

##### ○他教科との関連

常盤南小学校のように6年間を通した活動の見通しの中から2学年全体の教育課程を意識することが大切である。そして連尺小学校のように、子どもの自然な意識の流れに沿った他教科との関連を図ることに加えて、それまでの経験や、その後の理科、社会、総合的学習への発展を考え、子どもにとってより充実した学びになるように考慮する。

##### ○1単元の大きさ

岡崎市全体として、1単元が10時間以下の単元が7割以上であった。しかし、対象とじっくりかかわり、気付きを深めていくことができるように、また、評価を指導に生かすことができるように、時間にゆとりをもった大単元を設定し、子どもの思いや願いに応じて柔軟に対応していくことが望ましい。

##### ○年間指導計画の見直し

計画に沿って、他学年の教師や保護者、地域の人の協力を得、実践していきながら、子どもの興味・関心に基づいて柔軟に対応、変更していくことも大切である。そして、一年が終わったら計画を振り返り、内容・視点を付け加えたり、修正したりしてよりよいものに成長させ、発展的に継承していきたい。

#### 謝辞

本研究を行なうにあたり、ご多用の中、面接調査にご協力下さった諸先生方に深く感謝致します。

#### 【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説生活編』, 1998年, p.51
  - 2) 鳩貝太郎・中川美穂子編著『学校飼育動物と生命尊重の指導』教育開発研究所, 2004年, p.17
  - 3) 文部省『小学校指導書生活編』1988年, p.17
  - 4) 前掲書(1) p.21
  - 5) 前掲書(1) p.21
  - 6) 嶋野道弘編著『新小学校教育課程講座〈生活〉』ぎょうせい, 1999年, pp.51-52
- ・嶋野道弘編著『新しい教育課程と学習活動の実際生活』東洋館出版社, 1999年
  - ・嶋野道弘編著『改訂 小学校学習指導要領の展開生活科編』明治図書, 1999年
  - ・水越敏行・吉本均編著『生活科と低学年カリキュラム』ぎょうせい, 1993年
  - ・松村昌俊・野田敦敬編『小学校 新学習指導要領Q&A～解説と展開～生活編』教育出版, 1999年